

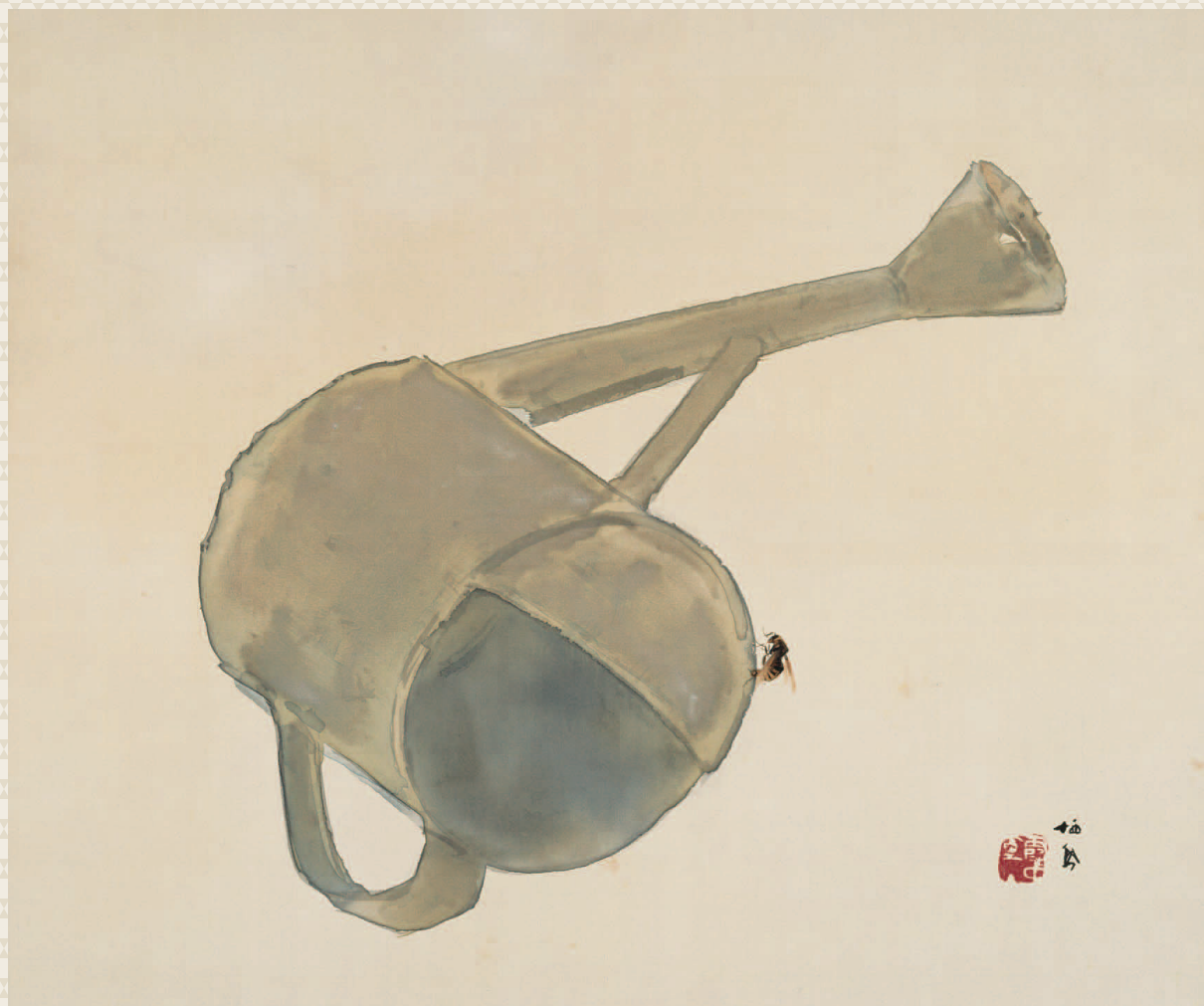
伸びゆく企業と車社会をつなぐ——。

令和7年6月1日発行
毎月1回1日発行 第59巻第6号 通巻693号

AARK

2025 June
Vol.693

6



公益社団法人 愛知県安全運転管理協議会

<https://www.1972-aakk.jp>
tel. 052-883-2110 fax. 052-883-3100



国宝犬山城



犬山祭



木曾川うかい



「わがまち」紹介!

～犬山市の歴史と文化～ ★犬山安全運転管理協議会



犬山安全運転管理協議会は、モンキーパークや明治村などの観光地として有名な犬山市と世界最長の大根である守口大根の産地として有名な扶桑町を管轄する協議会です。

今回は、犬山市の由来と歴史、文化を紹介します。

▼犬山市の由来

『郷土読本犬山』によると犬山の地名の語源には三つの学説があります。

一つ目は、犬を使った狩りに最適だったことから「いぬやま」になった説。

二つ目は、平安時代の丹羽郡小野郷が山

間部であることから小野山から転じて「いぬやま」になった説。

三つ目は、大縣神社の祭神「大荒田命」が犬山の針綱神社の祭神の一人玉姫命の父にあたり、大縣神社から見て犬山が戌亥の方向に当ることから、「いぬいやま」が転じて「いぬやま」になった説です。

▼歴史(古代から現代まで)

●古代

垂仁二十七年(紀元前三三)に、大縣神社が本宮山の山頂から現在地に移されました。

●中近世

戦国安土桃山時代になると、天下分け目の戦いの一つとされる「小牧・長久手の戦い」では、羽黒城などで交戦が行われ、豊臣秀吉の本陣が犬山城に置かれました。

名古屋城下町と中山道を結んだ上街道や犬山城下町を結んだ稲置街道などの脇往還が整備されました。

●近代

一八六八年(明治元年)犬山藩成立。それまでは尾張藩の一部でした。

一八七二年(明治四年)犬山藩が名古屋県に合併。名古屋県下の十六村の行政区分に分離されました。

●現代

一九五四年(昭和二十九年)四月一日、丹羽郡犬山町・池野村・桑田村・城東村・羽黒村が合併し、犬山市が発足しました。
二〇二五年(平成二十七年)入鹿池がICRD

世界灌漑施設遺産に登録されました。

二〇一六年(平成二十八年)十一月二日、犬山祭の車山行事などの「山鉾屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

▼文化

●犬山祭

犬山祭とは、愛知県犬山市にて、毎年四月の第週の土曜日、日曜日に行われる、針綱神社の春季祭礼です。一日目を「試案」、二日目を「本案」と呼びます。「試案」では、「車山」と書いて「やま」と呼ばれる十三輦の山車が曳き回され針綱神社でからくりを奉納し、「本案」は針綱神社で神事が行われます。祭礼は国の重要無形民俗文化財に指定されています。また、犬山祭保存会によって組織化して運営されています。

●木曾川うかい(犬山うかい)

木曾川うかいとは、愛知県犬山市の木曾川で毎年六月一日から十月十五日まで(八月十日を除く)行われる鵜飼です。二〇〇〇年ほど前から行われており、起源は漁としての鵜飼ですが、現在は古典漁法を今に伝える観光としての鵜飼になっています。

以上のとおり由来や歴史、文化の魅力ある犬山市。

街のシンボルでもある犬山城をはじめ、数々の観光スポットもあります。

まるでタイムスリップしたかのような雰囲気は、大人の旅におすすめです。

また、家族連れでも楽しめるテーマパークがあり、何度行っても飽きることがありません。動物やお菓子がテーマとなったユニークな施設が多く、お子さんも目一杯楽しめることでしょう。犬山を旅行観光の際は、是非とも参考にしてください。

●わがまち紹介	1	●春の全国交通安全運動の実施結果	5	●広報資料	11
●交通安全随想	2	●交通安全講話	8	●警察からのお知らせ	12
●贖いの日々	3	●エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動に参加して	9	●今月の安全運転管理	13
●管理者登場	4	●エコ&セーフティ無事故・無違反運動参加チーム募集	10	●KYT(危険予知トレーニング)、編集雑記	14



交通安全

随想



交通評論家
矢橋 昇

運転者の義務

雨の季節に雪道の運転の話を持ち出すのもどうかと思うが、路面への配慮などの点では雨の日の運転にも通じるものがあると思うので、ご容赦願いたい。

今年の冬は、たびたび大雪に見舞われ、各地で雪が原因と思われる交通事故が多発した。そして、その多くが、滑り止め装備の装着を怠ったか、路面状況に相応しくない運転操作を行った結果のようである。

雪道や凍結路が滑りやすいのは誰もが知っている当たり前のことだろう。そうした状況の道で車を運転しようと言うのだから、スリップなどを起こしにくいように可能な限りの装備を整えた上で、路面にに応じて、いつも以上に慎重に車を進めるべきなのは、運転者としては当然の心得だと思う。

ところが、最近はどうも、そうした意識

の希薄な運転者が増えているように感じられるのだ。

確かに、この地方では、山間部などを除けば、最近では雪が積もるようなことはめったにない。積もっても、うっすら路面を覆うくらいか、せいぜい数センチ程度。慎重に車を進めれば、何とか乗り切れそうに思える場合が殆どだろう。

だから、殆どの人が、冬装備を整えるまでの必要性を感じていない。でも、そんな中で、ごくたまにだが雪が積もり、あるいは道路が凍結することはある。車を使わなくても済めばそれでいいが、そうもいかない場合も多い。何とかなるだろうとハンドルを握り、最初は恐る恐る車を進めていくうちに慣れが生じて、ふと気が緩む。思わず踏んだアクセルやブレーキがきつかけで、スリップを引き起こしてしまうというのがお定まりのケースのようだ。

近年は車の操縦安定性が良くなり、多少、荒っぽい運転や不用意な操作をしても車の性能がカバーしてくれている。だから、どうしても、運転を気楽に考えやすい。雪道の事故の背景には、そうした意識が関わっているように思えるのである。

最近では、この地方では、スタッドレスタイヤに履き替えたり、タイヤチェーンを用意して冬場に備えたりする人は減ってきているようだ。

確かに、ひと冬に二―三回、あるかないか

のことである。雪が降ったら、道路が凍結しそうだと思ったら、運転は控えるというのなら、別にそれでも構わない。しかし、少しでも乗る機会があるのなら、やはり冬装備を整えておくのは、運転者としての当然の責任だろう。

昔、いつても昭和の終わり頃の話だが、名古屋辺りでも、タイヤチェーンは冬の運転の必需品だと考えられていたように記憶している。まだ、スタッドレスタイヤなどない時代である。高速道路では、ゲートでチェックがあり、冬用の装備が整っていないと、乗り入れることを許されなかった。名神高速道路などでも、随所にチェーン脱着のための施設も設けられていた。

多分、誰もが、少しでも積雪や凍結の心配がある限り、対策を講じて運転に当たるのは当然だと考えるのが、当時の運転者の常識だったのだと思う。冬を前に、雪道や凍結路での安全運転訓練（アンチスキッド訓練など）を受ける人も少なくなかったと記憶している。

道路環境や車の性能など、当時とは事情は随分違ってきたのはいるが、車を運転する限り、安全確保や周囲への迷惑防止に責任を負わねばならないことには今も昔も変りない筈だ。積雪や凍結に備えた装備を整えるのは、そうした当然の配慮の一つに他ならないだろう。

言うまでもないことだが、装備を怠って雪道や凍結路で車を進めるのは、れっきとした交通ルール違反である。道交法に基づいて各都道府県公安委員会が定めた遵守事項に反する行為に他ならない。安全運転義務を果たしていないとも言えるだろう。

それ以前に、こうした装備を整えるのは、事故防止や迷惑排除を考えれば、当然の

配慮の筈だ。ルールを持ち出すまでもなく、大人なら当然備えているべき弁えに他ならないと思う。毎冬のように繰り返される雪道のトラブルの裏には、そうした意識の薄れが潜んでいるような気がしてならないのだ。

「雪が原因の事故」という。しかし、雪があるからと言って必ずスリップが起こる訳ではない。原因の多くは、運転者の不用意な操作の方だし、きちんと滑り止めの対策を取らなかった心掛けの甘さにあると思うのだ。

確かに、装備を整え、慎重に運転していたつもりでも、車が滑り出してしまうこともある。実は私にも経験があるのだ。幸い大過はなかったが、冬タイヤを履き慎重に運転していたのに、ほんのちよとした不用意な操作がスリップに繋がることもあるのが雪道の怖さであることを身をもって知られた。

積雪や凍結した路面は滑りやすい。その通りだ。しかし、実際にスリップを起こすかどうかは、そこを通る人や車の行動の仕方次第なのだ。滑りやすい道だからこそ、きちんと装備を整え、路面に見合った適切な行動をとることが欠かせないのだ。

とりわけ自動車の運転ともなれば、自分の不注意によるトラブルが、他の道路利用者にも多大な迷惑をかけることになりかねない。

要は、装備を整え、整備を怠らず、状況に応じた運転を心掛けること。これは、雨の季節にも通じることだろう。雪道ほどではないが、悪条件は多い。タイヤは摩耗していないか、ワイパーは正常に働くか。準備怠りなく雨季を安全に乗り切りたいものである。

あがな

贖いの日々

取り返しのつかない事件

O・J 20代 整備士

私は取り返しのつかない事件を起こしてしまいました。

その日は、午後6時まで仕事をし、一旦自宅に帰ると、荷物を置いて散髪に出かける途中、友人に電話して一緒に遊ぶことになりました。

友人は後輩と一緒に居るといっているので、それなら一緒に来るように伝えたと、2人はバイクで来ることになりました。

私が散髪を終え、自宅に戻ると友人とその後輩は私より先に到着しており、私が車を停める倉庫の中で待っていました。

自宅に招き入れ、私が入浴する間、部屋で待つよう伝えました。

その頃、私と友人とは用事がなくとも仕事の終わりの休日、ほぼ毎日のように一緒に遊んでいました。その日も何をするか、特に決まっていませんでした。

入浴を終え部屋に戻ると、友人が今から女友達の所へ行くと言っていました。

私は特にやる事もなかったので、すぐに用意をして出発しました。

私は車で、友人と後輩はバイクで

行くことになり、私はバイクの後ろからついて行きました。

県道をずっと道なりに走っていると、バイクに乗った友人達は、赤信号で停車している車の脇をすり抜け、一番前まで行ってしまいました。

信号が赤に変わるたびに停止車両の一番前まで進むので、どんどん私との距離が広がっていきました。

私は早く友人達のバイクに追いつこうと、国道に入ると速度を上げました。

国道は空いていたので、友人達に追いつくため時速120キロメートルくらいのスピードを出して追いつきました。

そして前方のトラックを追い越すため中央寄りの2車線目に移ると、それまではトラックの死角で見えなかったバイクが、目の前を走っていました。

時速120キロメートル前後の猛スピードで走っていた私は、ブレーキをかける間もなくバイクに追突し転倒させてしまいました。

私は車を停止させると、すぐに車から降り、被害者のもとに駆け寄る

と、驚いたことに衝突した相手は友人達でした。

私が119番と110番に通報すると、消防署と警察署は近くにあったことから、直ぐにきてくれました。

私は事件を起こしたショックで頭が真っ白になり、何が何だか分からず頭の中は混乱するばかりでした。

その後、友人の後輩は事件の3時間後に、友人は4日後に亡くなったと聞かされました。

私は自分が友人の命を奪ってしまったことや、もう二度と会えないことが信じられませんでした。

私が起こした事件なのに、私だけが生き残り、何の罪もない友人達が亡くなったことが受け入れられず、何度も自分の軽はずみな行動を悔やみました。

しかし、ご遺族は私以上に悔やみ、悲しみ、辛い思いをされていると思います。

私は今回の事件で多くの方を傷つけたご遺族はもとより、私の家族や会社の人達にも心配と多大なご迷惑をかけてしまいました。

交通犯罪は自分だけでなく、多くの人を不幸にします。亡くなられた被害者は二度と生き返ることはありません。ご遺族は大切なご家族を失った悲しみを一生背負って生きることになります。

そして、加害者である私の家族にも辛い思いをさせました。

私に下された判決は禁錮2年というものでした。軽いか、重いかはわかりませんが、自分の犯した罪の重さを自覚し、反省の日々を送っています。

市原刑務所では、自分が起こした事件を通じてハンドルを握る責任の重さを学び、ご遺族の心情等についても様々なご指導を受けることができました。

私は後わずかで出所となりますが、受刑生活の中で学んだことを忘れず、規則正しい生活を続けたいと思います。

私は未だご遺族に対して、しっかりとした謝罪が出来ていません。許されることならば、ご遺族の元に伺い誠意ある謝罪を行った上で、償いを続けたいと考えています。

ハンドルを握る皆様にお伝えしたいことは、「運転には大きなリスクを伴う」ということです。わずかな不注意や慢心が取り返しのつかない結果を招きます。

事件を起こしてからでは遅いのです。ハンドルを握る際は、その危険性を自覚し、安全運転に努めるよう心掛けて下さい。

（注）（財）東京交通安全協会発行「贖いの日々」
— 交通事故はもうたくさん —
から転載したものです。

管理者 登場

(犬山安全運転管理協議会)
村田機械株式会社 犬山事業所
犬山市橋爪中島2

代表取締役社長
村田 大介 氏



安全運転管理者
馬場 洋幸 氏
安全運転管理事務局
石垣 柚葉 氏

●社員数……………3,819人
●管理車両……………49台
●車両通勤者……………2,228人

交通事故のない安全で快適な交通社会を実現する為、
社員一人ひとりが交通安全を意識し、悲惨な交通事故による
犠牲者を一人でも少なくする活動を推進しています。

◆会社概要

村田機械は、京都に本社を置くF.A.O.A
機器メーカー。一九三五年に「西陣ジャカード
機製作所」として創業し、今年で九十周年を
迎えます。繊維機械、物流システム、ファクト
リーオートメーション、クリーンルーム内
FAシステム、工作機械、板金加工機などの
産業機械に加え、デジタル複合機をはじめと
する情報機器や製造業向け生産管理システ
ムなど多岐にわたり事業展開しています。

犬山事業所は、三八〇、〇〇〇平米の広大
な敷地内にL&AクリーンFA工作機械の
技術開発部門、製造工場、パーツセンターな
ど約四十棟の工場事務棟があり、約「三〇
〇人の社員が働く村田機械最大の技術開発
生産拠点です。



犬山事業所航空

◆交通安全への取組内容

(1)交通安全行事の開催

従業員の交通ルール徹底の為、春の全国交
通安全運動期間の通勤時間帯に弊社安全運
転推進委員会が毎年「構内ながらスマホ運転
チェック」を実施しており、今年度からは、一時



交通安全講話



駐車場での実技教育



交通安全教育



安全運転推進委員会

停止啓蒙活動と逆走車両チェックも併せて行
いました。秋の全国交通安全運動の期間には、
毎年「構内速度チェック」を実施しています。
冬には、交通安全講習動画をeラーニング
で配信することで、従業員の交通安全の知識
定着を図り、交通事故撲滅を目指しています。
コロナ禍で中断していた犬山警察署の方に
よる従業員向けの交通安全講話を今年の夏
から改めて実施いただく予定です。
また、犬山警察署管内で季節ごとに行われ
る交通安全運動にも参加し、地域への啓蒙活
動に取り組んでいます。

(2)新入社員の交通安全教育の実施

当社での交通事故を分析した結果、人の要

(3)安全運転推進委員会の開催

因としては免許取り立ての若い方が交通事
故を起こしやすい傾向にある事、場所の要因
としては駐車場での事故が多いから、毎年四
月に高卒新入社員に対して、交通安全教育を
行うと共に、犬山警察署の方にご協力頂き、
交通安全講話と駐車場での実技教育(駐車時
の注意事項)を実施いただいています。
また、夏には運転適性検査を実施し、自身
の運転の特徴を理解した上で、運転いただく
ようにしています。

三か月に一回、安全運転推進委員会を開催
しています。会議の中では、法改正の情報や
事業所周辺・事業所内の危険箇所を特定し、
運転時の注意事項の共有や、
実際に発生した交通事故の
概要説明と、その交通事故
に対する事故防止アドバ
イスをお伝えすることで、
交通事故の発生・再発防止
につなげています。

◆今後の活動

交通加害事故ゼロ件を目
指して、従業員一人ひとりの
交通安全意識と運転マナー
が高まる取り組みを検討・
実施すると共に、弊社従業
員が安全運転を心がけるこ
とで地域の皆様の安全も
守っていけるよう、より一層
交通安全活動を積極的に
取り組んで参ります。

2025
年

春の全国交通安全運動の実施結果

4月6日(日)から4月15(火)までの10日間、交通安全運動が行われました。
各地区から報告のあった実施結果の一部を紹介します。

運動重点

- こどもを始めとする歩行者が安全に通行できる道路交通環境の確保と正しい横断方法の実践
- 歩行者優先意識の徹底とながら運転等の根絶やシートベルト・チャイルドシートの適切な使用の促進
- 自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守の徹底

愛知県

大村知事、清林館高校と名古屋たちばな高校、西城幼稚園の生徒園児らが、ヘルメット着用を呼び掛け



南

豊田保育園児のちびっこ警察官らが
反射材を配り交通安全を呼び掛け



昭 和

(株)メイアン、パイロットインキ(株)、昭和区女性交通安全クラブの
皆さんらによる自転車安全利用の啓発



北

安協・安管理事らがサインボード等を使用して
ドライバーらにマナー向上を呼び掛け



港

交通死亡事故の命日における交通事故抑止活動



瑞 穂

モデルの村上なずなさんを一日警察署長に迎え、
自転車ヘルメット着用を呼び掛け



北

(株)平安閣の皆さんによる立哨活動



緑

緑安管、緑区安協、緑地域交通推進委員、緑区役所、
学区等のメンバー約70名による大監視



熱 田

(株)服部組、(株)山田商会、名鉄日エンジニアリング(株)、名古屋青果(株)、
愛知機械工業(株)、名古屋トヨベットの皆さんらが主要交差点で立哨活動



西

小学校を卒業する団員の令和6年度
西区交通少年団連合会卒団式



津 島

津島自動車学校での教習生に対する
啓発活動と高齢者交通安全教室



春 日 井

安協・安管協力事業所、警友会スクールガード、トラック協会、
春日井市内タクシー組合、交通安全指導員らによる歩行者保護キャンペーン



天 白

お笑い芸人の鬼越トマホークさんを一日警察署長に迎え、
飲酒体験ゴーグルを活用した交通安全啓発活動



津 島

令和6年度ミス交通安全に一年間の活動に対する感謝状の贈呈



江 南

江南市女性交通安全クラブ等による街頭啓発活動



守 山

NTP名古屋トヨペット(株)レックス守山の
皆さんらによる立哨活動



蟹 江

セーフティレディ委嘱式と海部南部交通安全総決起大会の開催



犬 山

名鉄犬山駅、犬山市役所と合同で啓発品を配布して
踏切交通事故防止キャンペーン



守 山

尾張旭市、交通安全指導員、安協、安管、地推協、尾張旭市交通安全女性クラブ、
県トラック協会尾東支部瀬戸旭・守山支部会等の皆さんによる歩行者保護キャンペーン



半 田

半田市をはじめとする交通安全諸団体・事業所の
方々による交通事故防止の呼び掛け



一 宮

市長、署長、安協支部長、安管役員等による駅前キャンペーン



瀬 戸

瀬戸市、安管、安協等関係機関・団体・企業による
交通安全啓発キャンペーン



西 尾

関係機関・団体・企業がー丸となった人波作戦(大監視)



碧 南 高 浜

交通安全アンバサダーの委嘱及び啓発活動



半 田

知多自動車学校での立哨と子ども達の見守り活動



岡 崎

幸田町における出発式と立哨活動



安 城 知 立

知立自動車学校での交通安全啓発



東 海

東海分会7者協議会委員、東海警察署、東海市役所の皆さんによる下校時見守り活動



岡 崎

名鉄観光バスガイドによる交通安全マイク広報とチラシ配布による街頭啓発



安 城 知 立

たまね「大切な命、守ろう交通ルール、念押し確認一時停止、ぎゅっと締めてねシートベルト」やキュウリ「車はきゅうり(急に)止まらない」を配布しての街頭啓発



知 多

安協・安管理事、地域交通安全活動推進委員、知多市役所、知多市ライオンスクラブの皆さんらによる交通事故防止キャンペーン



岡 崎

上地自動車学校による新入学児童を対象とした交通安全教室



安 城 知 立

知立市、名古屋鉄道(株)等と協力しての踏切事故啓発



中 部 空 港

名古屋税関、海上保安庁等関係機関との合同による交通安全キャンペーン



交通安全講話

阿部建設(株)

日 付：3月28日
参加者：約30名
講 師：加藤交通総務係長



北

老健みなと

日 付：4月14日
参加者：デイサービス利用者約30人
講 師：朝倉交通総務係主任



港

(株)東亜製作所

日 付：4月14日
参加者：約40名
講 師：松坂交通課長



緑

(株)YMD

日 付：4月4日
参加者：約100名
講 師：三浦交通課長



名東

豊 橋

交通安全運動出発式と豊橋・湖西安全
運転管理協議会連絡会の開催等



足 助

歩行者の安全確保及び二輪車事故防止キャンペーン



田 原

道の駅「田原めっくんはうす」で出発式と街頭啓発



設 楽

横断歩行者保護キャンペーン



田 原

ゲートボール大会での交通安全啓発



新 城

関係機関・団体等によるハンドプレート、
のぼり旗を活用した大監視



高 速 隊

アナウンサーの中村彩賀さんを高速隊長に迎え、
ながらスマホの危険性を呼び掛け



蒲 郡

エコバッグを配布し「エコ運転で事故にあワン」キャンペーン





エコ&セーフティ

100日間無事故・ 無違反運動に参加して



中部電力パワーグリッド株式会社

北営業所



参加メンバー(1名欠)

今回の運動で、私たちは職場の仲間と共に安全運転を心掛け、日々の運転においてお互いを意識し合うことで、一人

事故防止に直結することを痛感しました。

この度の「エコ&セーフティ100日間無事故・無違反運動」に参加し、私たちのチームは安全運転の重要性を改めて実感しました。表彰式で警察幹部の方が述べられたように、「違反がなくなれば、事故もなくなる」という言葉は非常に重く、交通事故の七割から八割が何らかの違反によって引き起こされている現実を考えると、違反をなくすことが事故防止に直結することを痛感しました。



若者チーム

池田 龍空

ひとりが安全行動への自覚を持つことができました。参加者同士が声を掛け合い、励まし合うことで、チームワークとしての「安全の輪」を広げることができたと感じています。これからは、漫然と事故が発生しないことを期待するのではなく、私たちが主体性を持って仲間と共に新たな交通安全意識のもと「事故ゼロ」を目指し努力を続けることで、職場全体の業務活性化につなげていきたいと思っています。

この運動を通じて得た「気づき」を日常生活や担当業務に活かし、今まで以上に安全運転を心掛けることで、私たちの職場がより安全で活気ある環境となるよう努めてまいります。今後も「無事故・無違反」を目指し、チーム一丸となつて取り組んでいくことをここに誓います。

令和
7年度

エコ&セーフティ 無事故・無違反運動 参加チーム募集



1 今年の募集要領

◆ 運動期間

令和7年7月11日(金)～12月31日(木)まで

◆ 応募期間

6月3日(火)～6月23日(月)

◆ 参加資格

愛知県内地区安全運転管理協議会の会員
事業所の従業員とします。

①若者チーム(16歳～24歳以下)1チーム5人

②一般(年齢等不問)1チーム10人

◆ 参加チーム数

先着350チーム

※先着350チームで締め切ります。

締切りはホームページでお知らせします。

◆ 参加に係る費用

①若者チーム

1チーム当たり 5,000円(消費税含む)

②一般チーム

1チーム当たり 10,000円(消費税含む)

※参加費用は、銀行振込となりますので、振
込手数料は、各チームでご負担ください。

※参加費用には、無事故・無違反であることを
確認するための「運転記録証明書」の
申請料を含みます。

2 運動の流れ

(1) 参加申込み

当協議会のホームページから「参加申請書」
をダウンロードし、参加申請書に必要な事項を
記載、記名、押印して6月23日(月)までに当協議
会まで郵送又は持参してください。

その後、当協議会から「運動のポスター」と
「参加費納入のご案内」をお送りします。

350チームの応募があり、締め切った場合
はホームページでお知らせしますので、郵送・
持参の前にご確認ください。

(2) 運転記録証明書の送付

自動車安全運転センターから、参加者全員
の運転記録証明書が届きます。

(3) 表彰式のご案内

自動車安全運転センターへの照会の結果、
無事故・無違反を達成されたチームには、(公
社)愛知県安全運転管理協議会から表彰式の
ご案内をお送りします。代表者の方は、表彰式
にご出席ください。

3 表彰式

(1) 日時

令和8年3月11日(木)

午前10時30分から

(2) 場所

名古屋市中区丸の内2-5-10

「アイリス愛知」

(3) 出席者等

達成事業所代表者1名のご出席をお願いし
ます。

達成チームには表彰状を贈呈します。

※表彰式中止の場合、当協議会のホームペー
ジでお知らせします。

(「AAKK」で検索)→新着情報→[「令和7年
度エコ&セーフティ無事故・無違反運動」参
加申込みの受付]

シートベルト・チャイルドシート

シートベルトは一般道・高速道路を問わず、全席で着用する義務がありますが、着用率の調査結果によれば、すべての方が着用しているとは言えない現状にあります。シートベルトには、交通事故に遭った際の被害軽減はもとより、正しい運転姿勢を保つことによる疲労軽減などの効果もあります。交通事故に遭った際、運転者等は大きな衝撃を受けます。時速六十キロメートルの車がコンクリートの壁にぶつかった時の衝撃は、ビルの五階程度の高さから落ちた衝撃と同程度と言われています。速度が速くなれば、衝撃もより強くなります。もし、シートベルト非着用状態でこの強い衝撃を受けると、車内に身体を強く打ち付けるほか、後部席の人は、前方に投げ出され、運転者や助手席の同乗者とぶつかったり、車外に放出される場合もあります。車外放出となれば、アスファルトに身体を強打したり、場合によっては後続車などにひかれてしまう可能性もあります。実際に、令和二年か

ら令和六年の間に発生した愛知県内の人身交通事故を見てみると、シートベルト非着用者の致死率は着用者の約二十六倍となっています。さらに、運転席だけで見ると、約六十八倍にもなり、シートベルト着用による被害軽減効果を証明していることが分かります。

また、六歳未満のお子さんには体格に合ったチャイルドシート又はジュニアシートを着用させましょう。シートベルトは成人用に作られていますので、小さなお子さんの場合、シートベルトでは衝突時に身体を十分に保護できず、首等に重大な傷害を負う可能性があります。チャイルドシート・ジュニアシートは安全基準に適合したものを使用し、説明書をよく読み、座席に確実に固定し、正しく使用しましょう。そして、お子さんのお手本となるよう、大人はシートベルトを正しく着用して、安全な交通行動に努めましょう。



警察本部交通総務課
柴田 莉沙

柴田さんの交通キャンペーン

●東海ラジオ セーフティ・メッセージ PM4:35・PM5:25

表紙写真 炎暑

竹内 栖鳳 (1864-1942)

▼サイズ…42.6×51.3cm
▼制作年…1930年
【愛知県美術館所蔵(木村定三コレクション)】

ごろりと転がったように蜂がとまっています。背景は切省かれています。真夏の焼けつくような暑さを指す作品名によって、目の前に夏の情景が現れます。

画家たちが時代に即した新しい絵画を模索した明治初期、京都で絵の修業を始めた栖鳳もまた、従来の日本絵画の枠組みにおさまらない新しい日本画を描こうと試行錯誤しました。抜群の筆技を下地とし次々と新機軸を打ち出して、伝統の継承と革新の双方を体現していた栖鳳は、京都画壇の筆頭格として「西の栖鳳、東の大観」と、東京の横山大観と並び称されました。本作は「写生と省筆」、観察が充分であれば筆数を大胆に減らしても対象を描けるとした栖鳳円熟の筆技が光る点です。



(学芸員 中野悠)

展覧会情報

◆「近代日本画のトプランナー 竹内栖鳳」

7月4日(金)〜8月17日(日)
明治・大正・昭和の時代、創作者として先頭を走り、教育者として後進の範となつた近代日本画のトプランナー「竹内栖鳳」。初期から晩年までの作品や資料を通して、栖鳳の画業を振り返るとともに、その表現世界の多様さを紹介します。

◆同時開催コレクション展

フランス・オーピュシヨンのタビスリー…『千と千尋の神隠し』
木村定三コレクション 岡本柳南

【休館日】月曜日(ただし7月21日「月祝」、8月11日「月祝」は開館、7月22日(火)、8月12日(水)
【開館時間】10時〜18時
(金曜日は20時まで
(入館は閉館30分前まで)

■愛知県美術館
〒461-8525
名古屋市中区東校1-13-12
(地下鉄東山線「名城線」栄駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、オアシス21連絡通路利用徒歩3分)
TEL: 052-971-5511(代)
FAX: 052-971-5604
<https://www.art.aac.pref.aichi.jp/>



雨の日の交通事故防止



梅雨入りを迎える季節となりました。雨の日は視界が悪くなる上、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なり、交通事故のリスクが高くなります。視界が悪く前方の状況が見えにくい雨天時は、晴れの日よりも速度を落とし、十分な車間距離をとるなど、特に慎重な運転に心掛けましょう。

また、安全確認を確実にし、その先の危険を予測することが大切です。



雨の日の注意点

1 制動距離

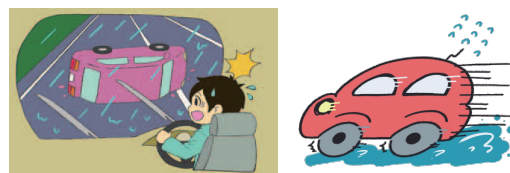
濡れている路面が滑りやすくなります。車間距離を十分にとりましょう。



2 「急」のつく運転

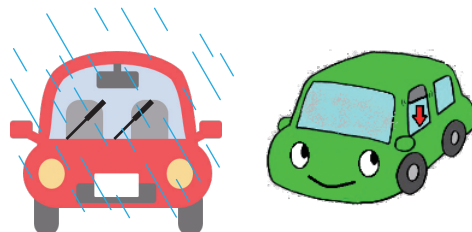
急発進・急ハンドル・急ブレーキは横滑りやスリップの原因となります。

絶対にやめましょう。



3 視界不良

降雨時はワイパーを使用して、油膜などで前面が見えづらいときは、洗浄液で綺麗にしましょう。また、車内の窓ガラスが曇ることが多いので、デフロスターを使用したり、側面のガラスを開けるなどして、曇りを防ぎましょう。





御寄附ありがとうございます

株式会社ロイヤル 様

4月3日、当協議会の活動に賛同し、多大な御寄附をいただきました
株式会社ロイヤル様に会長感謝状を贈呈させていただきました。
誠に、ありがとうございます。

今月の安全運転管理

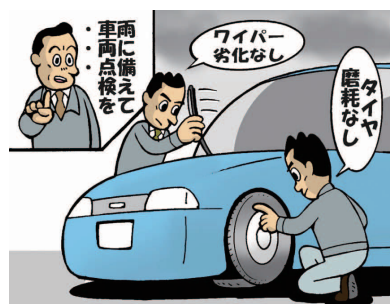
タイヤの点検が防ぐ 梅雨期のスリップ事故

①梅雨期の安全運転管理を推進しよう

- タイヤの状態を確認しておこう
- 災害発生時に備えた連絡体制の構築を図ろう

②6月11日から「カチッと100!」シートベルト・チャイルドシート着用徹底強化旬間が始まります

- 全席シートベルト着用を呼び掛けよう



梅雨に備えてタイヤをチェックしておこう

タイヤには、車両の重量を支える、駆動力制動力を路面に伝える、方向を転換維持する、路面からの衝撃をやわらげるなど、重要な役割があります。

梅雨の時期に、タイヤが摩耗していたり、空気圧が不足していたりすると、制動距離がのびるだけではなく、スリップやハイドロプレーニング現象の危険が高まり非常に危険です。タイヤのチェックを入念に行いましょう。

もし、タイヤに摩耗等の不備が見つかった場合は、速やかに新しいタイヤに交換してください。

また、タイヤのチェックと一緒にワイパーのチェックと掃除も行っておきましょう。

災害時の連絡体制を構築しておこう

近年、豪雨や地震などの災害が多発しています。こうした災害発生時、運転者に適切な指示が出せるよう、緊急連絡体制を構築しておきましょう。

大規模な災害時は、通信が混乱し、電話がつかないケースがあります。メールやSNSの活用など、複数の連絡手段を準備しておきましょう。また、連絡手段がきちんと機能しているかも

チェックしてください。

ある事業所では、災害発生時を想定して、SNSを用いて管理者と従業員との連絡がスムーズに行えるか確認する取り組みを実施しています。

全席シートベルト着用を徹底させよう

六月十一日～二十日にかけて「カチッと100!」シートベルトチャイルドシート着用徹底強化旬間」が実施されます。事業所でもこの運動に呼応して、全席シートベルト着用を進めましょう。

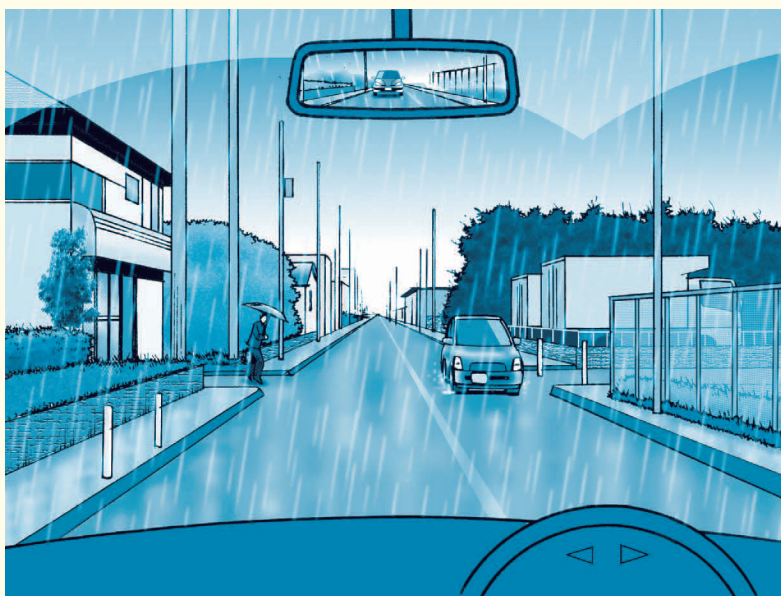
警察庁とJAFが行った調査では、県内の一般道での運転席の着用率は九十九%であったのに対して、後部座席の着用率は四十一・四%と著しく低くなっています。

また、県の調べ（令和二～六年）では、後部座席シートベルト非着用死者（十八人）のうち、シートベルトを着用していれば約九割（十六人）が助かった可能性があったとされています。

運転者には、座席に座ったら、全員にシートベルト着用を促すとともに、全員のシートベルト着用を確認してから出発することを呼び掛けましょう。

また、後部座席に座る際には、率先してシートベルトを着用することを習慣づけるよう指導しましょう。

KYT(危険予知トレーニング)



- どのような危険が予測されますか?
- どのような運転をすれば安全ですか?

状況説明

雨の日に片側1車線道路を走行しています。前方には傘を差している歩行者が見えます。

このまま直進したいのですが……。

ドライバーとして

- イラストを見て、この運転場面に潜む危険要因を挙げてください。
- この場面での安全な運転方法について考えてください。

同乗者として

ドライバーにどのようなアドバイスをすればいいでしょうか。考えてください。

回答例

危険予知ポイント

- ①飛び出してきた歩行者と衝突する。
- ②後続車に追突される。

※歩行者の横断を予測する

- 傘を差している歩行者が突然道路を横断してくることが考えられます。また、対向車の死角に隠れた歩行者が、道路右側から飛び出してくるかもしれません。
- 左右両方からの歩行者の横断を予測し、慎重に走行しましょう。

※後続車に注意喚起する

- 雨の日は停止距離が長くなるため、横断歩行者に気づいてから急ブレーキを踏むと、後続車に対応できず追突されるおそれがあります。
- この場面ではブレーキを少し踏んで減速し、後続車に注意喚起しておきましょう。

編集雑記

～わき水～

富士山のわき水は、昨日の雨ではない。

安全運転を習慣とするドライバーの運転とは、昨日受けた指導・教育によるものではない。譲り合い、歩行者を優先し、確実に止まり、安全確認を怠らない。そんな誇るべき運転とは、一日で身に付くものではない。上司から、事故するなと指示されて行うものではない。これまで身に付けてきた安全意識、その人の人格が、運転行動として現れている。

会社全体の交通事故を減らすためには、社員個々の運転行動が変化しなければならない。社員の運転行動とは、それぞれが抱えている安全意識の結果である。そのため、運転行動を変化させるためには、社員個々の安全意識を変化、進化させなければならない。

つまり、運転行動を変化させることは、人の価値観に変化を与えることであり、それが簡単であるはずはない。手間と時間と反復継続が必要である。

そして、安全意識とは、数値評価できず、検証することが困難である。そのため、これまでの交通安全教育は、一方的な指示が繰り返されてきた。そして、発生した交通事故の原因とは、当該社員が指示を守らなかったことと判断され、対策を増やして幕を引く。

しかし、その方法では、社員の安全意識を向上させることはできない。事故当事者は叱られたことを反省するが、運が悪かったと思うだけであり、運転行動は変化・進化しない。そして他の社員も、事故の原因について真摯に向き合わず、その結果、交通事故は増減を繰り返す。

さて、自動車とは安全で快適な乗り物である。ならば、交通事故を防ぐ安全運転が、強制されて行う苦痛なものであるはずがない。私たちの安全運転とは、楽しいものであるはずだ。

ところが、運転とは、多くの場合は手段にすぎない。会社へ行くための運転、買い物のための運転など、運転することが目的ではない。それ故、そこに落とし穴がある。運転する先の目的のことに思考を奪われ、現実の安全意識が乏しくなることで、事故は発生する。

しかし、自動車を運転することを通じて、私たちはどれほどの豊かさを享受してきたか。遠くまで自由に移動することで、私たちの可能性、人生の豊かさは格段に広がった。

例えば、包丁は、肉や野菜を切るものであり、自分の指を切ったり、他人を刺したりしてはいけいない。

自動車は安全に走るべきものであり、そのためには、譲り合い、歩行者を優先し、止まるべき場所では確実に止まる、そんな誇るべき安全運転こそが必要である。

安全運転とは、教えられるだけで身に付くことはない。自分で考え、その大切さを思い、安全運転を決意しなければ、運転行動は変化しない。それ故、相応の時間が必要である。

富士山のわき水は、昨日の雨ではない。数十年前から百年前の雨水が今、わき水となって私たちの喉を潤してくれる。

今日降り続く雨が、明日のわき水にならないから無駄なのではない。降り続けることによっていつか、やがてそれはわき水になる。

私たちが取り組む交通事故防止活動、各会社・事業所で取り組まれている安全運転管理とは、今日の事故を防ぐことが目的ではない。

安全運転を行うこと、続けること、習慣とすることの大切さを伝え続けることによって、いつか必ず誰かの事故を防ぎ、社員の人生と幸せを守る。そして、会社組織は進化する。

今日のわき水がいつの雨なのか、今日の安全がいつの教育なのかわからなくても、そこに価値を認めて継続すること、それが企業としての課題であり、進化である。

AAKK 小

安全運転管理者講習は7月から始まります。

(安全運転管理者講習日程は、QRコードをご覧ください。)



AAKK

June 2025

第59巻 第6号 通巻693号

愛知県警察本部交通部 協力

<https://www.1972-aakk.jp>

令和7年 6月1日発行

編集発行人 ● 相羽 繁生

制作 ● ダイナパック株式会社

発行所 ● 公益財団法人愛知県安全運転管理協議会

名古屋市中区錦三丁目14番15号

〒466-8566 名古屋市中区錦三丁目26番15号

TEL(052)883-2110 FAX(052)883-3100

※「iネット」登録パスワード(半角数字4文字)・・・「2110」

●転載する場合は、事前に発行所へ連絡してください。 ●内容についてのお問合せは発行所に連絡してください。